

(表現活動)

## 「生き生きと話し合う子を育てる」

### ー表現活動の充実を目指してー

大阪市立清水丘小学校 研修部

#### 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標「自ら学ぶ態度と心豊かにたくましく生きる力を育む教育を推進する。」を設定し、思考力・判断力・表現力の育成に日々の教育活動を展開している。

本校の児童の課題を見ると、表現活動において、筋道を立てて話したり理由を述べながら説明したりすることができにくいこと、また、発言者に対して賛否を含めながら自分の意見を述べたり、反応しながら聞いたりすることもできにくいことがあげられた。さらに、全国学力・学習状況調査の分析からも、自分の考えを表現することに比べ、書いて表現することを苦手としていることがわかった。そこで、平成 25 年度より「質の高い表現活動を求めて」取り組み、話型を基に話し合い活動を進めた。本年度は研究主題を「生き生きと話し合う子を育てる」とし、さらに「表現活動の充実を目指して」を副題として、書くことも取り入れた話し合い活動を中心に研究を進めてきた。

#### 2. 研究の趣旨

これまで、表現力の育成を目標に、教科を特定せず様々な面から表現活動に取り組んできた。特に話し合い活動の充実や工夫を中心に取り組んできたので、話型を基に表現する力は身に付いてきている。しかしながら、質の高い表現活動を追求していくうえで、本校の児童の課題はまだある。児童が理由付けて発表し、その発表者に対して自然と応答ができて話し合いが活発になるような授業が「生き生きと話し合う」ことになる。また、児童が思考力を深め、多様な方法を活用して学習内容にあった表現ができる態度の育成が「表現活動の充実」へつながると考える。そこで、児童が主体的に学び、学習内容が身に付くために、書く活動にも重点を置いた表現活動の充実につながる取り組みを進めていく。

#### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

##### 視点① 話し合い活動を通して学び合う態度を育てる。

- 基本話型を用いて、発表の仕方や意見に対する発言の仕方、場に応じた発言ができるようにする。
- ペアや3～4人の少人数でのグループ学習をしてから、全体での発表や話し合いへ広げていけるよう場を設定する。
- ハンドサインを用いて、発言に対する意思表示を明らかにする。
- 話を聞く時は、うなずいたり、メモを取ったりしながら聞いたりするなど、しっかりと聞き取り受け止めることができるようにする。
- 低・中・高の発達段階ごとに分けた基本話型、学年に応じた話し合いカード、1～6年生まで共通のハンドサインを用いる。

##### 視点② 表現活動の充実を図る。

- ノートやワークシートを活用し、自分の考えや感想を書き入れたり、絵や図などを使って説明したりして、思考力を深めるようにする。

- 自分の考えなどを書き入れることで、自分の意見を明確にし、活発な話し合いへとつなげる。
- 学習の終わりに振り返りを行い、学習の理解を見つめ直し、次へのやる気が起きるようにする。

#### 視点③ 互いに認め合える雰囲気づくりを行う。

- 自分の意見や考えを発表し、伝え合い、深め合っていくために、「間違えても受け止めてもらえる。」「できるだけ相手を理解しようとする。」など、互いに認め合える雰囲気をつくる。
- 挨拶や返事がしっかりできるようにし、適切な言葉遣いができるよう、学級や学校全体で生活指導をしっかり行う。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 話し合いカードを活用し、ペアや3～4人の少人数で交流したり、いくつかの文を比較して討論のように全体で話し合ったりするなど、場の設定を工夫することで、自分の考えがまとまらなかった児童も自分の意見がもてるようになってきた。
- 自分の考えに自信がもてなかった児童も少人数で交流することで自信がもてるようになった。また、全体で意見を発表し、交流して学習理解を深め、学び合う態度を育成することができた。
- 自分の意見をノートやワークシートに書いてから話し合いをすることで、意見を整理して話し合いを深めることができた。
- 実物を用意したり、ICT機器を活用したりして、児童の興味や関心を高める工夫をし、課題に対する思考力を深めることができた。
- 友達の考えと自分の考えを比べたり、理由付けて意見を述べたりすることで、表現活動の充実を図ることができた。
- 話を聞くときに、発言者を見たり、うなずきやハンドサインで反応したりすることで、互いの考えを認め合える雰囲気をつくり、友達の意見を大切にして最後までしっかり聞くことができるようになってきた。
- 互いの意見の良いところを見つける活動をしたことで、自尊感情を高めることができ、互いに認め合える雰囲気づくりを行うことができた。
- 話し合い活動を活発に行うことで、コミュニケーション能力や物事を多面的・総合的に考える力を育み、学力の育成と児童の心の育成も図ることができた。

#### (2) 今後の課題

- 自分の意見を書くときに、周りとの話し合いで書いている児童がいるので、自ら意見を書くことができるように、学習理解を深める手立てを工夫していく。
- 話し合い活動に対して、まだまだ苦手意識を持っている児童もいるので、そうした児童が自信を持てるように、支援の在り方を工夫していく。
- 日々の学校生活の中で、あらゆる場面で表現活動の充実を図り、互いに学び合う態度を育成し、互いに認め合える雰囲気づくりを行っていけるように、きめ細かく指導していく。